

[成果情報名] 冬季におけるスプレーギクの切り花品質に關与する要因

[要約] 冬季におけるスプレーギクの切り花品質は、苗質、栽植密度、短日開始時の草丈の影響を強く受ける。ボリュームのある切り花を得るには、太くて重い挿し穂を使用し、75本/m²以下の栽植密度として、短日開始時の草丈を40cm前後とすることが望ましい。

[キーワード] スプレーギク、苗質、栽植密度、草丈

[担当機関名] 農業試験場・栽培部

[連絡先] 電話 0736-64-2300

[部会名] 野菜・花き

[分類] 指導

[背景・ねらい]

冬季におけるスプレーギク生産（12月～2月出荷）では、切り花のボリューム不足（切り花重および着花輪数の減少）による品質の低下が大きな問題となっている。そこで、冬季のスプレーギク切り花のボリュームに關与する環境要因を明らかにすることで栽培管理の適正化を図り、スプレーギクの安定生産につなげる。

[成果の内容・特徴]

1. 定植時には太くて重い苗を揃えて植え付けると、株間の生育に不揃いが生じにくく開花がよく揃うとともに、ボリュームのある切り花が得られやすくなる（図1）。
2. 栽植密度が低くなると生育が揃う傾向にあり、植え付け本数に対する商品化率が高くなる（表1）。無摘心栽培においてボリュームのある切り花を得るには、栽植密度を75本/m²（実面積）以下とすることが望ましい。
3. 短日処理開始時の草丈が長くなるほど切り花のボリュームは向上し、開花輪数も増加する。短日処理開始時には、約40cmの草丈を確保することでボリュームのある切り花が得られやすい（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 冬季におけるスプレーギク生産の適切な栽培管理（栽植密度、短日処理開始時のタイミングなど）の参考となる。
2. 本成果は、‘オデット’等4品種における2月開花の作型（16℃加温栽培）でのデータである。

[具体的データ]

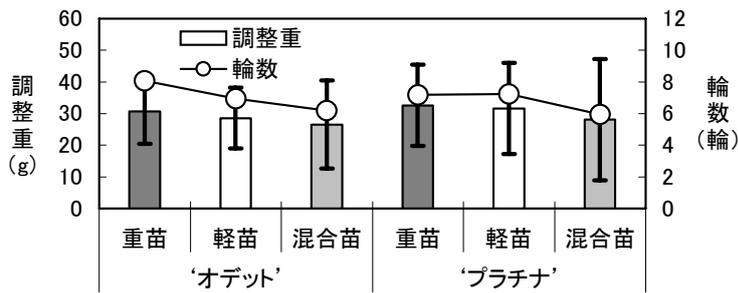


図1 定植時の苗質とスプレーギク切り花の形質

挿し穂調整後の重さを測定し、重い苗(オデット:1.1 g以上、プラチナ:1.5 g以上)と軽い苗(オデット:0.8 g以下、プラチナ:1.2 g以下)に分類した後、次の通り苗質を設定し、砂上げ育苗後、定植した。
 重苗:重い苗のみ定植、軽苗:軽い苗のみ定植、混合苗:重い苗と軽い苗を等量ずつ定植。
 調整重は、切り花を80 cmに調整した後、基部から20 cmの葉を取り除いた時の重さ。
 輪数は、舌状花に着色が認められた花序の数。グラフ内の縦棒線は調整重の標準偏差。
 短日処理開始日:12月12日(オデット)、12月17日(プラチナ)

表1 栽植密度とスプレーギクの切り花収量

栽植密度	規格別切り花本数(本)				計	商品化率 (%)
	2L	L	M	規格外		
低密度	13	2	0	1	16	94
中密度	13	7	1	3	24	88
高密度	16	1	0	15	32	47

栽植密度:低密度(約60本/m²)、中密度(約75本/m²)、高密度(約90本/m²)
 試験区の面積は、15 cm角フラワーネットを利用し、0.81 m²(6×6マス)とした。
 低密度:外2マスを2本植え、中4マスを1本植え、中密度:外4マスを2本植え、中2マスを1本植え
 高密度:全6マスとも2本植え、各区とも中4マスの株を調査対象株とした。
 規格:2L(切り花長80 cm以上、調整重40 g以上)、L(切り花長70 cm以上、調整重30 g以上)、M(切り花長60 cm以上、調整重20 g以上)、規格外(2L、L、M以外)
 供試品種:‘ボモロ’、短日処理開始日:12月17日

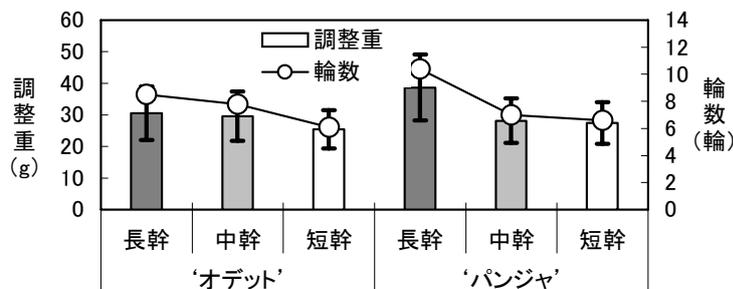


図2 短日処理開始時の草丈とスプレーギク切り花の形質

草丈は、長幹:約45 cm、中幹:約33 cm、短幹:約23 cm
 調整重、輪数、グラフ内の縦棒については、図1参照。
 短日処理開始日:12月12日

[その他]

研究課題名:紀北花きの地域に密着した生産技術の開発

予算区分:県単

研究期間:平成16~18年

研究担当者:島 浩二、矢部泰弘、川西孝秀